

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2023No.326】(HP 収載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：グスタフ・マーラー

曲名：交響曲第4番ト長調

演奏：ロビン・ティチャーティ指揮ベルリンフィル/エルサ・ブノワ(ソプラノ)

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/55039>

2023年12月10日ベルリンフィル大ホールにおける演奏です。



ティチャーティがマーラーの交響曲第4番で初登場

ベルリン・ドイツ交響楽団の首席指揮者、ロビン・ティチャーティがベルリンフィルに初登場します。デビュー公演のメインに選ばれたのは、マーラーにしては珍しく晴れやかな交響曲第4番。ティチャーティの第4番は、「これほど自然な流れで、マンネリ化しておらず、魅惑的な美しいピアニッシモによる演奏は滅多に聴くことができない」と「ベルリン・モルゲンポスト」紙に評されています。前半には、ドヴォルザーク《真昼の魔女》とオンドレイ・アダメク《シニユアス・ヴォイシズ》というチェコ音楽が演奏されます。

以上の他に下記が演奏されました。

アントニン・ドヴォルザーク 交響詩《真昼の魔女》op. 108

オンドレイ・アダメク 《シニユアス・ヴォイシズ》

マーラーの交響曲第4番は、マーラーの交響曲の中では、派手なところのない地味な曲で、木管や弦が綾なす彩が魅力ですが、そういった趣がよく現れています。時として打楽器や金管の味付けもあり、コントラバスの斉奏も明瞭です。

木管やハープをバックにした、4楽章のソプラノの歌唱が聴かせどころですが、ステー

ジの後方に位置したエルサ・ブノワの澄み切ったソプラノが心地よく響きます。

ドヴォルザークの交響詩《真昼の魔女》は、題名どおり、おどろおどろしいところもあって、勢いのある演奏です。

アダメクの《シニユアス・ヴォイシズ》は、現代曲のようで、ヴァイオリンやチェロはピチカートを多用し、金管はミュートをつけて唸り声のような音を出したり、打楽器も加わって、異様な雰囲気醸しだしています。終演後、作曲家がステージに現れて喝采を受けていました。

指揮のロビン・ティチアーティはベルリンフィル初登場とのことですが、銜いのない分かりやすい指揮でした。



これまでと同様、スピーカーアキュライザーの位置変更とスピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続していますので、そういった対策の総合的な効果で、オーソドックスな交響曲から現代曲まで、幅広い対応ができるようになっています。

以上